

令和2年度 第2回 学校運営協議会

令和2年11月17日(火)
9:30～ 西校舎PC/多目的室

1. 参加者

○学校運営協議会委員

荒木 啓司 様 佐藤 康二 様 秦 和恵 様
築城 久宣 様 中川 雅子 様 長谷川 祐介 様
三又三千代 様

○学校職員 渡邊 英樹 (校長)

廣田 秀俊 (教頭) 金子 正康 (教頭)
平山富美代 (主幹教諭) 阿南 雅彦 (教務主任)

2. 授業参観(オープンスクール)

- ・東校舎(1～4年)西校舎(5・6年中心に)

3. 内容

- ・本校の取り組みについて
 - ①学校経営について
 - 学校マネジメント「4つの観点」
 - 賀来小中学校マネジメントツールの進捗について
 - ②家庭・地域の取り組みについて
 - 家庭での重点的な取組について
 - 学習ボランティアについて
- ・情報交換

4. 協議

- 学年別スポーツテストについては、一般的な偏差値を示すことが望ましい。そのほうがデータに根拠を持たせることができる。
【学校より】たくましくプロジェクトでデータの取り扱いを検討する。
- 学習ボランティアで行った映像記録について、肖像権や著作権の問題があるため、映像のコピー等による配布は行っていないか。
【学校より】文化発表会の映像記録を学習ボランティアで行った。映像の公開については、限定した場所でのみとして共有し、文化発表会の映像は懇談時に各学級で公開する。
- 1学期の学校評価票の中で、数値の低い学年や項目が気になる。特に「授業が楽しい」「授業がよくわかった」「SNS利用」の項目は、改善していかななくてはならないのではないか。

【学校より】学校評価票は6月学校再開後による期間の短い中でのデータとしてある。1学期間は授業時数確保のための学習の積み重ね等の影響はある。教育課程を実施していく中で、教員の授業改善と共に子どもの学習意欲を育てていく。SNS等の利用・改善については、家庭へ通信等を使い発信し、協力体制のもと取り組んでいく。ゲームの時間の削減は家庭での教育力が必要である。

○生徒による授業評価について、特定の学年の教科による数値の違いを受け止め、改善していかななくてはならないのではないか。

【学校より】研修で各教科部会による改善策の話し合いを行っている。互見授業を実践し、それぞれの授業者の授業の見直しを進めている。各教科部会から好事例や授業実践のアイデアを出し合い、日頃の授業の改善に努めている。生徒による授業評価を今年度は年3回行い、子どもたちの声をしっかりと受け止め授業改善していく。

○賀来小中学校は短縮授業やS短授業が多いのではないか。

【学校より】9、10月は行事に対する時間確保のため多くの日に設定をした。今後、標準時間数（1～6年：45分 7～9年：50分）のもと、授業を実施していく。11月以降の日程等の見直しを図る。

○ICT活用によって、授業準備等で時間が削減できないか。移行期は作成に時間がかかるが、一度作っておけば継続使用できるのではないか。

【学校より】今後、タブレットが一人一台で予算化されている。ICT活用を活性化させるために教材をICTで準備していく。

○保護者アンケートでもICT活用が望まれている。これを機に学校が変わってほしい要望が多くある。保育園では連絡帳もアプリを使用している。学校もペーパーレス化していくべきである。

【学校より】学校評価票における職員間の入力・作成についてはICTを活用した。今後は保護者向けにも発信できるように計画をしている。

5. 校長より

○委員の皆様の意見を反映して学校運営の改善を継続していく。今後もエビデンスをしっかりと示しながら、学校経営を行う。

○学校評価票は今後も重要視する。評価票に出ている赤字の数値は職員間で共有し、改善を行う。

○生徒による授業評価は子どもと共に双方向で共有し、「できた」「わかった」を味わえる授業を計画し実践できるようにしていく。

○肖像権、著作権の事柄（文化発表会）については、限定した場所での情報交換を行う。

○働き方改革については、教師が子どもと向き合う時間の確保のために推進する。

○全34学級の全てで授業改善を行う。家庭の協力、地域の見守りの協働をお願いする。